

(様式2)

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月24日
札幌市立篠路小学校

1 学校教育目標

たくましく生きる子 なかのよい子 よろこびをもつ子

2 本年度の経営方針

やってみよう！しのろ！

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

(4～十分に満足 3～おおむね満足 2～不十分なところがある 1～できていない) で評価。

⇒ A～3.3以上 B～2.8以上3.3未満 C～2.3以上2.8未満 D～2.3未満

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	今年度の取組/改善の方策	自己評価の適切さ	取組/改善策の適切さ
①令和7年度 包括的重点 教育課程に関わって	①教職員間のコミュニケーションを図りながら、子どもにとって魅力のある学校づくりができたか。	B	毎週末の職員集会での児童交流や学びの支援委員会など教職員間で共通理解を図るよう努めた。職員間のお互いの支え合いがあり、やりたいことに向き合っている。	A	A
	②学習参観、個人懇談、学級懇談会等で工夫のある取組やHP・すぐーるの充実により、家庭への情報発信や保護者との連携を深めることができたか。	A	すぐーるやHP更新を充実させたことにより、教育活動の様子を理解していただいたり、ボランティアの御協力をいただいたりした。次年度も緊急時(クマ・大雪等)の情報発信を迅速に行っていく。	A	A
	③事件や事故、いじめ、子どもの問題行動に対して、報告・連絡・相談を行い、組織的に解決することができたか。	B	いじめは絶対に許さないという意識をもち、組織的に解決するように努めた。今後も、危機管理について組織的対応の徹底に努めていく。	A	A
	④学年研修の充実を図り、学年目標の具現化に向けた学年・学級経営を学年協働担任の意識で取り組むことができたか。	A	自分の学級だけではなく隣の学級にも積極的に関わり、協働的に子どもたちに向かうことができた。次年度も学年間の連携を大切にしていく。	A	A
	⑤教室環境の整備や児童の安全を意識して、学級経営をすることができたか。	B	適正な教室環境とルールとリレーションを改めて意識していくことで、児童の安全と、安心感の中での授業を保証していく。	A	A
	⑥教育課程編成の手引や学習指導要領に基づき、カリキュラムデザイン(教科横断的な視点で、その目標達成に必要な教育の内容を組織的に入れること)を意識することができたか。	C	次年度は、学習単元全体でAARサイクルを捉えることを大切にし、児童の学習意欲を引き出しながら学力の定着を目指していく。そのための研修も取り入れていく。	A	A

(様式2)

②信頼される学校の創造	⑦授業時数や日課表を意識して、教育活動を行うことができたか。	A	どの学年も計画的に教育活動を推進することができた。日課表については、登校時間について「よくわかる！篠路小」に8:30から始まる朝読書の準備を終わらせておくことについて明記する。	A	A	
	⑧学校経営方針のキーワードである「やってみよう！しのろ」を意識して教育活動を行うことができたか。	B	児童の将来に生きてはたらく「本物の経験」を十分に創ることができなかった。年間授業計画を立てる段階で、校外学習・出前授業などの外部連携を取り入れたり、児童の主体性を伸ばす行事や授業の工夫をしていったりする。	A	A	
学校関係者 評価委員による意見	失敗を恐れず、失敗から学んでいくという姿勢で「やってみよう！しのろ」を目指す学校運営を引き続き行ってほしい。子どもの問題行動について情報を学校や家庭、連携機関で共有していくことを大切に、協力する体制を続けて行ってほしい。組織で対応していくために、今後も教職員の同僚性を高めて教育活動にあたってほしい。					
③学び力の育成	授業改善にかかわって	⑨校内の研究計画に沿って実践研究を進め、課題探究的な学習を取り入れるなど、日常授業改善に努めることができていたか。	B	職員同士で授業を見合い、学ぶ場を設け、日々授業改善に努めた。次年度は、基礎学力の定着を目指し、個別最適な学び（UD含む）を研修していく。	A	A
		⑩ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら、子どもの学習意欲を高めるような授業を実践することができたか。（ICT機器の活用も含む）	B	問題意識を高めるには、ICTは有効な手立てであるが、ICTだけに偏ることがないように、宿題を含め活用の有無を児童に選択させていく。	A	A
		⑪話す・聞く・書くなどの学習ルールの定着を図り、子どもの基礎・基本的な学力を高めることができたか。	B	正しい話の聞き方に重点を置き、ルールとリレーションなど学び方の指導にも力を入れていく。ICTばかりではなく、書く力も育んでいく。	A	A
		⑫宿題や家庭学習を推奨することで子どもたちに家庭での学習の習慣を身に付けさせることができたか。	B	子どもたちが主体的に取り組めるように、宿題や家庭学習の在り方を考えていく。次年度は週末の宿題を児童が選択できるものにしていく。	A	A
		⑬部内研や全校研などの研究授業を通して、自分自身の授業力が高まりが見られたか。	B	研究授業だけではなく、日常授業の交流も行いながら、授業力向上に努めていく。必要に応じて外部講師を招き、研修の機会を設ける。	A	A
学校関係者 評価委員による意見	子どもたちにとって「わかる・できる・楽しい授業」にするために、日常授業改善のための研鑽をしていくことや、UD（ユニバーサルデザイン）についての研修も行ってほしい。また、正しい話の聞き方や学び方なども丁寧に指導していただき、安心して授業を受けることができる教室環境にも力を入れてほしい。放課後のChromebookの活用については、家庭や児童会館での使用も含め、長時間にならないよう配慮をしていただきたい。					

(様式2)

④豊かな心の育成	相手意識にかかわって	⑭傾聴・共感の姿勢で子どもと関わり、子どもが「自分が大切にされていると実感できる学校」にすることができたか。	B	日常から相談しやすい雰囲気をつくっていくことを心掛け、シャボテンログでの心の声を見逃さない。一人一人に組織で丁寧に対応していく。	A	A
		⑮子どもたちに挨拶や廊下歩行の指導をし、ルールを守って生活する意識を高めることができたか。	C	改善するための指導や取組を行ってきたが、継続できていない。なぜ挨拶やルールを守ることが必要かを考えられるようにしていきたい。	A	B
		⑯委員会活動やクラブ活動は、子どもたちの豊かな心や主体性を育み自治的な活動へとつなげることができていたか。	B	5・6年生が中心となり、集会などでは高学年の姿を下の学年に見せることができた。当番や企画の成功は、高学年の自信となっていた。	A	A
		⑰朝読書や学校生活の中で、読書に親しむ子どもを育てることができたか。	B	保護者と児童の見取りに大きく差が出た項目。読書機会の充実に向けて、授業で図書室を利用する計画も検討する。	A	A
		⑱道徳の学習や「いいねレター」などを通して、子どもの自己肯定感や思いやりの心、命を大切にすることなどを育むことができたか。	B	2 か月ごとの生活のめあてを効果的に活用し児童同士だけではなく、教師もいいねレターを活用し心を育てていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	子ども一人一人が自己肯定感を高めたり、相互承認の感度を高めていけたりできるように、一人一人に丁寧に関わり、傾聴・共感の姿勢を大切に引き続き対応をお願いしたい。また、ルールを守ることの大切さについて、学校内ではもちろん、家庭や連携機関も協力してしっかりと子どもたちに伝えていきたい。					
⑤健やかな体の育成	健康の充実にかわって	⑲学校行事に対して、児童は主体的に参加することができたか。	A	どの行事に対しても、児童は主体的に取り組んでいた。次年度は、スポーツの日について、特に児童の主体性を引き出せるように関わっていく。	A	A
		⑳運動機会の充実を図るために適切な声掛けや指導をすることができたか。	B	次年度は、取組が同じ期間に集中しないことや、休み時間の外遊びの推奨を学校全体で積極的に声掛けをしていく。	A	A
		㉑担任と養護教諭が連携しながら、子どもの体調などについて情報を共有し、子どもの健康の充実を図ることができたか。	A	学校での児童の健康状態について、養護教諭を中心に把握、共有することができていた。また、児童からの相談にも傾聴・共感の姿勢であたり、心の健康にも努めた。	A	A
		㉒担任と栄養教諭が連携しながら、食指導を行い健やかな体づくりに対する意識を高めることができたか。	B	給食カレンダー、お昼の給食放送など子どもたちの食に対する意識を高める取組が見られた。アレルギー対応についても、対策を徹底できた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	体を動かすことや給食をしっかりと食べることの心地よさや大切さを、子どもたちにぜひしっかりと教えてほしい。そのために食育や生命の安全教育についても引き続き学ばせてほしい。健康指導は児童会館などの連携機関でも取り組んでいく。					